



笑顔いっぱい かがやく入谷っ子

後ろ姿

掃除の時間、6年生が1年生と一緒に掃除をしています。活動の様子を見てみると、1年生が自分たちで活動していることに口を挟まず、様子を目の端に入れながら、共に掃除をしている立派な6年生の姿があります。

1年生の昇降口掃除では、1年生が自分たちの使用する靴箱の中に入っている靴をどかして、靴箱の砂を掃く掃除を行っていました。6年生は、下に落ちてきた靴箱の中の砂を集めていました。1年生ができることは任せ、その中でフォローする必要があるところを6年生が行っていました。靴が入っている靴箱の砂を掃き終えた1年生が、掃除を終了しようとする時、それを見ていた6年生が、靴を入れていない空の靴箱の中も掃き始めました。それを見た1年生が、「そこもやるんだ。」と言って、空の靴箱の中も掃き始めました。6年生の姿を見て、自分から1年生は動き始めました。

よく目に留まることですが、子供たちは、良い行動している人の姿を見て真似をしていきます。率先垂範…心がけていきたいと思います。子供たちに育ってほしい姿があれば、当然のことながら、私たち大人が率先して行動していくことが大切なことです。

「本をあまり読まない子供たちに本の楽しさを味わってほしい。」と話していた本校の教員がいます。そのために授業の開始5分間、読み聞かせを行うようにしていることに加え、朝読書の時間に、子供たちと共に自分も読書をしていくことを大切に

していると教えてくれました。先生が読書に親しんでいる姿は、子供たちの力に繋がっていくものであると考えます。「本を読みなさい。」という言葉だけでは得られないものを子供たちは感じてとっていきたくらいと思います。読書を進んで行う子供たちの姿を願い、「子供たちと共に自分も」という姿勢をもっていることを嬉しく思いました。

先日、全身の筋肉が動かなくなる筋委縮性側索硬化症（ALS）と闘病しながら、電動車いすに乗って聖火をつないだ医師である太田守武さんのニュースを目にしました。

太田さんは、息子さんが生まれた頃に病気を発症し、息子さんが物心つく頃には介助が必要な状況になっていたとのことで、父親としての姿を見せることができなかったことから、今回のことに至ったということでした。太田さんは、額の筋肉のわずかな動きで電動車いすを動かし、200mを12分かけて歩を進めたそうです。

『かっこよく 元気よく 生きてほしい』これが、息子さんへの願いだそうです。太田さんの姿から、息子さんは、どんなに大きな力をもらったことでしょうか。

『生きることは素晴らしい。』

これからも生きる光を灯していきたい。

苦しみの中に光あれ。』

太田さんが発信した言葉も紹介されました。心が揺さぶられました。

子供たちに映る後ろ姿は、どのような後ろ姿だろうか…。改めて自分自身振り返り、考える時間を持ちたいと思いました。